
ヴァンパイア騎士

ゆみ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ヴァンパイア騎士

【Nコード】

N3013Z

【作者名】

ゆみ

【あらすじ】

私、森 美鈴 26歳の会社員。兄を庇い車にひかれた私、そして何故かヴァンパイア騎士の世界へ転生。しかも転生後は男で玫瑰蘭家の長男だっ！？と言うことは・・・あの二人は私の弟・妹！？

兄

私っ！森 美鈴、ピチピチの女子高校生・・・じゃなくて26歳の会社員、一回荒野って見たかったの！

「お〜い美鈴」

声がした方を見てみると目の前には兄の顔、久しぶりに見たけど変わらない兄の顔。兄の歳は29歳、焦げ茶色の髪が肩ぐらいの長さで綺麗な黒目、身長がこれまた高くて・・・顔も整っている方。早々名前は森 レオ、レオ兄さんって私は呼んでいる。

「美鈴も兄さん達の床行くのか？」

そうレオ兄さんの他に兄が二人、四人兄妹。

「ええ、一緒に行きましょう」

「ああ」

それから歩きながらレオ兄さんと話した、すると突然車が此方に向かってきた。此の俣だとレオ兄さんの方に・・・そう思っていたら足が勝手に動いていた、体には痛みが無かった嫌・・・痛みが解らなかった。レオ兄さんが何か言うのが解る・・・意識が薄れて行く中、私は最期に兄が居てくれて良かった・・・

「レオ、兄、さん・・・」

言いたかった言葉を言う前に私の意識は・・・

兄さん、たとえ生まれ変わって新たに兄が居たとしても私の兄と認めるのはレオ兄さん達だけだよ。

また会おうね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3013z/>

ヴァンパイア騎士

2011年12月10日18時57分発行